

令和元年度の取組概要

竜王町と県の取組

- 竜王町弓削地区において、竜王町、滋賀県および自治会が協力して、「水害に強い地域づくり」に関する取組を進めています。

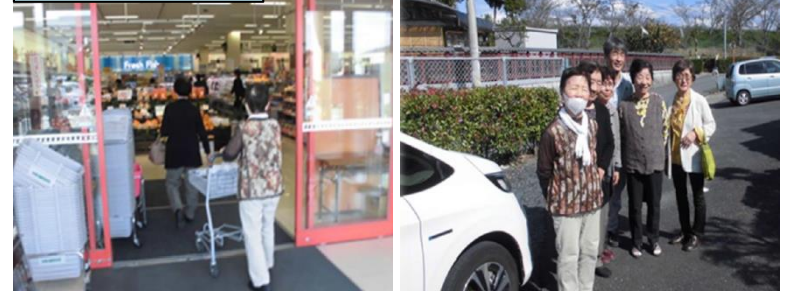
竜王町の取組

関係課名	役割	主な取組	作成予定資料
未来創造課	住民自治	地域支え合いしくみづくりモデル事業 □お出かけ支援 □若者のコミュニティづくり □支え合いマップ	□支え合いマップ【要配慮者】
福祉課	地域福祉		
生活安全課	防災全般	『要配慮者支援マニュアル 平成26年3月 竜王町』に基づく、要配慮者支援	□災害時要援護者登録台帳【要配慮者】
建設計画課	河川整備	—	特になし

若者のコミュニティづくり



お出かけ支援

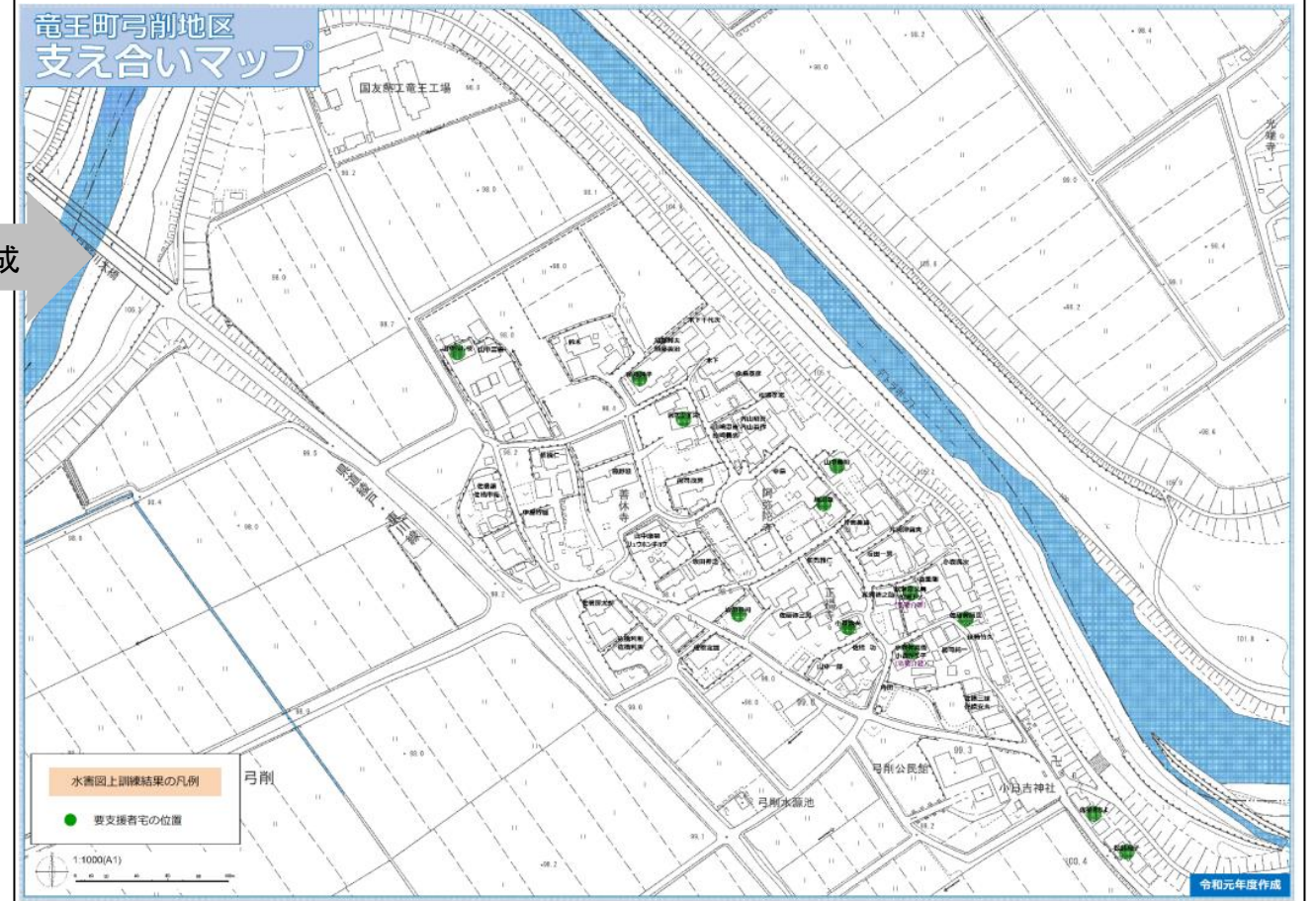


滋賀県の取組

関係課名	役割	主な取組	作成予定資料
東近江土木事務所 河川砂防課	ながす対策 ためる対策 河川整備	日野川改修	特になし
流域政策局 流域治水政策室	そなえる対策 とどめる対策	水害に強い地域づくり計画 □凶上訓練 □まちあるき □避難計画 □避難訓練 □浸水警戒区域	□早逃げマップ □逃げ遅れマップ □お助けマップ【要配慮者】 □我が家の避難カード □避難タイムライン

支え合いマップの作成

- 「水害に強い地域づくり」の取組の際に、地区内で独居老人などの要支援者を確認し、「支え合いマップ」のベースを作成した。



■支え合いマップとは

地域の中で、気になる人と近所の世話焼き・親族の関わりを線で結び、支え合いの見える化をして、地域全体で取り組む課題を明確にするためのものです。

支え合いマップを作成することで、一人暮らし高齢者の方への関わり、一人では解決できない地域全体で取り組むべき課題などが見えてきます。

県での取組状況について、次頁に記載

令和元年度の取組概要

水害図上訓練の実施

- 実施日：令和元年10月27日(日)
- 会場：弓削コミュニティセンター
- 参加者：地区住民10名、県2名、竜王町2名
- 概要：地区内における水害リスクや危険個所を再確認し、安全かつ迅速な避難計画を検討していくため、避難行動に対する意見交換を行った。

【想定シナリオ】

- 豪雨を想定した「早逃げ」
- 弓削ふれあいプラザ(避難集合同所)までの一時避難
- 竜王中学校(避難場所)までの避難

【意見交換での確認項目】

- ① 危険箇所
- ② 避難経路
- ③ 避難開始のタイミング
- ④ 避難する時に必要なもの

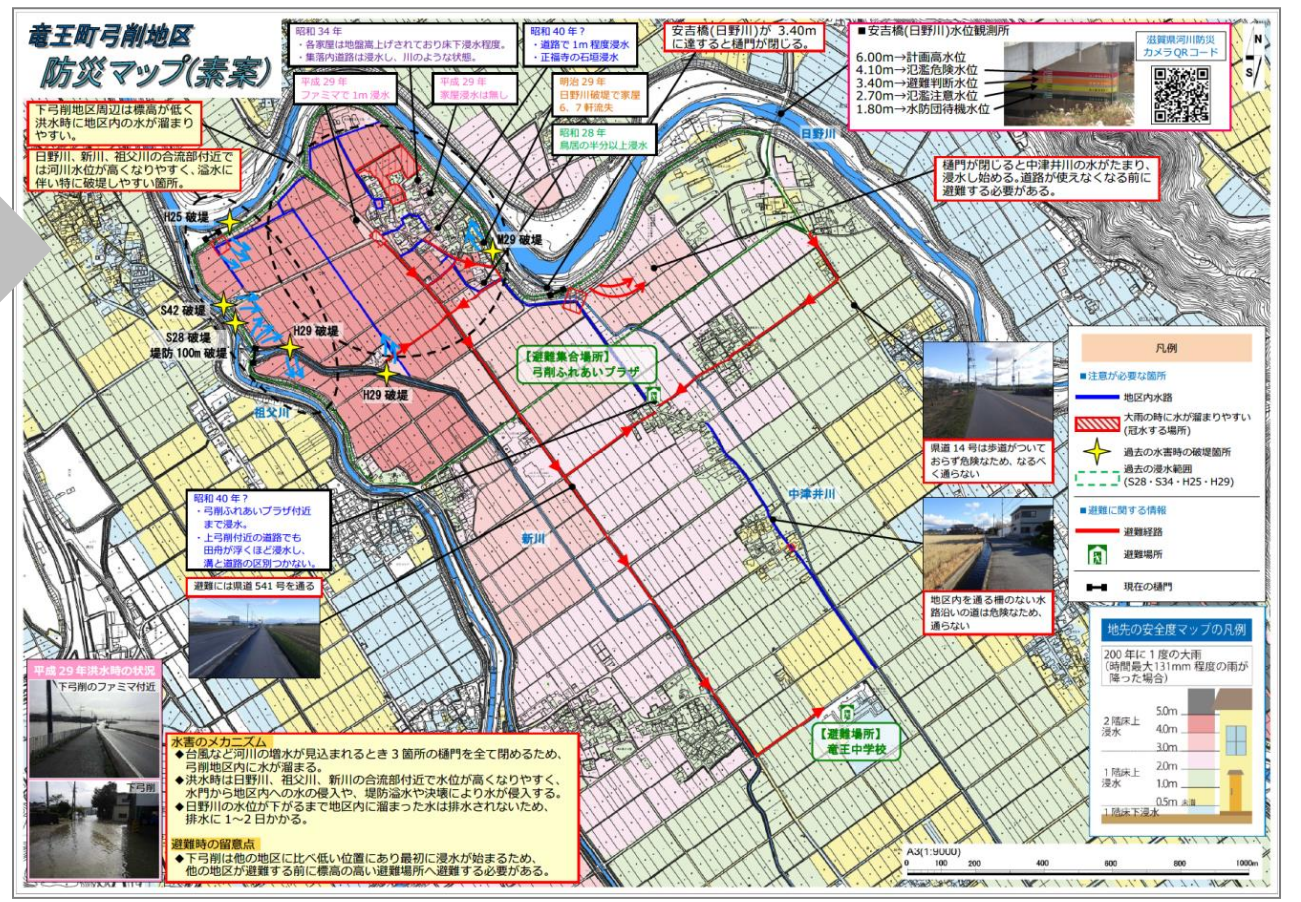


弓削地区における今後の確認事項

	とるべき行動	確認事項
1	日野川(安吉橋)の水位情報を確認する	・役割分担(誰が確認するか)
2	自治会長に情報を集約・避難判断	・情報共有方法
3	要支援者リストの方に連絡する	・連絡体制 ・支援者の確認
4	近隣の人への声かけ(情報の共有)	・同上
5	避難の開始 (弓削ふれあいプラザ→竜王中学校)	・避難方法(車(自家用or支援者)or徒歩) ・誰と避難するか (集合して避難or個別避難)
6	逃げ遅れについて	・避難場所

防災マップ・お助けマップの作成

- 図上訓練等で挙げられた意見を基に、「防災マップ」や「お助けマップ」を作成。



結果反映

弓削地区 タイムライン(案)

竜王町弓削地区 タイムライン(案)			
1.いつ		2.だれが?、何を?	
どんな情報で?	何が起こったら?	行動	
台風や大雨に関する情報	避難に関する情報	現象	行動
大雨・洪水注意報		日野川水位(安吉橋)が2.7m(注意水位)まで上昇	・役員あるいは住民の複数人が、日野川水位(安吉橋)を確認 ・自治会長が竜王町へ避難所の開設状況を確認 ・要支援者リストの方に連絡 ・近隣の人への声かけ(情報の共有) ・家族の安否確認 ・弓削ふれあいプラザへ移動し始める
大雨・洪水警報	避難準備・高齢者等避難開始	日野川水位(安吉橋)が3.0mまで上昇	・役員あるいは住民の複数人が、日野川水位(安吉橋)を確認 ・避難の開始(弓削ふれあいプラザから竜王中学校へ避難) ・個人で避難する場合は自治会に連絡
大雨特別警報	避難勧告	日野川水位(安吉橋)が3.4mまで上昇	・役員あるいは住民の複数人が、日野川水位(安吉橋)を確認 ・避難の開始(弓削ふれあいプラザから竜王中学校へ避難) ・個人で避難する場合は自治会に連絡
	避難指示(緊急)	樋門が閉じて日野川のバックがかり、周辺が浸水し始め	・役員あるいは住民の複数人が、日野川水位(安吉橋)を確認 ・避難の開始(弓削ふれあいプラザから竜王中学校へ避難) ・個人で避難する場合は自治会に連絡

今後の展開

- 図上訓練結果を反映した防災マップを基に、地区内の危険個所の現地確認(まちあるき)を実施し、避難計画を作成する。
- 要支援者の避難開始のタイミング(避難スイッチ)について確認する。
- 上記を踏まえて、大雨時の避難行動フロー(タイムライン)を作成する。